「鳥城会・史跡巡りガイド」16 年の記録

鳥城会―「ちょうじょうかい」と読む。我が母校・鳥取西高とその前身の鳥取一中の関東在住者による同窓会である。昭和 49 年に発足した。

私と鳥城会との関わりは平成 9 年に突如始まった。それまで「鳥城会」なる存在を全く知らなかった私に、ある日突然電話があり、いきなり「来年の総会は君達の年次が当番だ」と告げられたのだ。総会の当番は卒業年次の順送りが決まりだと言われる以上、断るわけにはいかない。当番を引き受ける限りは「よくやった」とお褒めの言葉をいただきたい。着々と準備を進める手際のよさが先輩役員のお目に適ったのか、翌平成 10 年の総会でいきなり「レクリエーション担当副会長を命ずる」とやられた。麻雀もゴルフも全くできない私である。やっと編み出したのが「史跡巡り」であった。爾来、平成 12 年の第 1 回から本年の第 13 回まで、中断の期間も入れて 16 年間、私一人で企画し、ガイド役をこなしてきた。今や、会員の皆様に待たれるほどの人気イベントとなった。

ここで少し「鳥城会」の名称の由来について述べてみよう。我が母校は鳥取一中→鳥取中学→宝暦 7 年設立の藩校・尚徳館へと遡る。大正 4 年 8 月 18 日、第 1 回全国中等学校優勝野球大会が大阪府下豊中グランドで開幕した。袴姿で始球式のボールを投ずる村山龍平朝日新聞社長の右に 3 人の男が立つ。一番端っこに姿勢よく立つユニホーム姿こそ、鳥取中学の鹿田一郎投手である。ことほど左様に我が母校は歴史が古い。その歴史の古さを象徴するのが校舎の建つ場所だ。国史跡・鳥取城の三の丸に建つ。このことは我々の大いに誇りとするところであり、「鳥城会」と名乗る所以である。では、如何なる経緯から三の丸に建つことになったのか。32 万 5 千石の鳥取藩の藩主は池田家。明治 22 年、池田家は大変な英断を下した。鳥取中学の校舎新築に当たって三の丸を使うよう特段の配慮をしてくださったのだ。このご恩は決して忘れてはならない。私は昨年 11 月、7 年間務めた鳥城会会長を退くに当たって、池田家 16 代当主・池田百合子様に面会し、鳥城会の「特別栄誉会員」に推戴したい旨申し上げ、ご快諾いただいた。些かでもご恩返しができたものと喜んでいる。

「史跡巡り」に話を戻そう。私は史跡巡りを催すに当たって幾つかのルールを設定した。①コースは概ね徒歩 3 時間を限度とし、トイレ休憩にも配慮する。②集合場所は集まり易い JR や地下鉄の改札口とする。③できる限り何らかの形で鳥取ゆかりのコースとする。④参加者が「へー、知らなかった」と感心するような目玉を最低一つ盛り込む。⑤必ず懇親の場を設ける。では、第 1 回から順を追ってコースを紹介しよう。史跡巡りが好きな方のご参考になれば幸甚である。

第 1 回　（平成 12 年秋）―新宿区の文化散歩

JR 飯田橋駅西口集合→神楽坂路地→田村虎蔵顕彰碑（筑土八幡神社境内）→尾崎紅葉旧居→和算家・関孝和の墓（浄輪寺）→女優・松井須磨子の墓（多聞院）→漱石山房跡→兵学

者・山鹿素行の墓（宗参寺）→小石川後楽園内「涵徳亭」（懇親会）

神楽坂の楽しみは路地歩きにある。奥まった路地に建つ「和可菜」は、野坂昭如、色川武大、山田洋次等が缶詰になって原稿を書いた如何にも文人旅館という風情があった。作曲家・田村虎蔵は鳥取県人。童謡「きんたろう」や「はなさかじじい」、唱歌「青葉の笛」等で有名。因みに唱歌「ふるさと」の作曲家・岡野貞一も鳥取県人である。尾崎紅葉、関孝和、松井須磨子、山鹿素行は説明するまでもないであろう。漱石山房跡は「これが漱石山房？」と目を疑うくらいに荒れ果てていた。大名庭園で懇親会ができるなんて誰も知らなかった。全員、大喜び。

第 2 回　（平成 13 年秋）―江戸川区郊外の思いっ切り漫歩

JR 小岩駅南口集合→影向の松→一之江名主屋敷→清澄庭園内「涼亭」（懇親会）

小岩・善養寺の「影向（ようごう）の松」は樹齢 600 年以上の黒松で、国の天然記念物。「影向」とは神仏がこの世に仮の姿をとって現れること。枝振りは東西 28m、南北 31m。嘗て香川県志度町真覚寺の「岡野松」と日本一を争った。この勝負に、当時の立行司・木村庄之助と小岩出身の横綱・栃錦の春日野理事長が絡む面白い話があるが、それはネットでどうぞ。「岡野松」は 1993 年に枯死。今や、「影向の松」は文字どおり日本一である。一之江名主屋敷は敷地面積 2,000 坪。1770 年代（安永年間）に建てられた屋敷は中世土豪風の構えである。清澄庭園では、池に張り出した「涼亭」を独占して殿様気分を味わった。

第 3 回　（平成 14 年秋）―鎌倉の裏道散歩

JR 鎌倉駅東口集合→宇都宮辻子御所跡→大仏次郎邸→東勝寺橋→北条高時腹切やぐら→釈迦堂口切通し→安国論寺→来迎寺→光明寺→内藤家墓地→逗子マリーナの海岸から富士山を遠望→KKR 鎌倉わかみや（懇親会）

宇都宮辻子御所は頼朝が最初に構えた大倉御所の後に続く。大仏次郎邸は路地に面した黒塀の邸宅。休日にはお茶が飲める。滑川と一体となった東勝寺橋は実に美しい。北条高時は 1333 年、新田義貞に攻められ、菩提寺・東勝寺で一族・家臣諸共自刃。ここに鎌倉幕府は滅亡。「腹切やぐら」は今も高時の怨念が残っているようで不気味である。釈迦堂口切通しへは峠のトンネルを抜けて行く。その手前の坂から振り返って見る八幡宮の甍は実に美しい。大仏が愛した坂だ。釈迦堂口切通しは雰囲気抜群の洞門であったが、残念ながら今は立入禁止。安国論寺は日蓮が「立正安国論」を著した草庵が源。来迎寺には頼朝の挙兵に参加し、戦死した三浦大介の墓と一族の五輪塔 100 基余りが整然と並ぶ。光明寺は浄土宗の大本山。伽藍が見事。内藤家墓地は正に壮観。磐城・平藩と日向・延岡藩の墓所。逗子マリーナの海岸から望む富士山は手前に稲村ケ崎、向こうに江の島を配し、正に絶景。KKR 鎌倉わかみやは海岸の側に建つ和風リゾートホテル。

第 4 回　（平成 15 年秋）―鎌倉扇ガ谷の寺巡り・墓巡り

JR 北鎌倉駅下車･円覚寺門前集合→亀ケ谷切通し→岩船地蔵堂→海蔵寺→阿仏尼の墓→相馬師常の墓→里見弾旧居→浄光明寺→冷泉為相の墓→大仏次郎･政子･実朝の墓（壽福寺）→刃稲荷→佐助トンネル→KKR 鎌倉わかみや（懇親会）

亀ケ谷切通しは「鎌倉七口」の一つ。切通しを降り切った角に岩船地蔵堂は立つ。頼朝の娘・大姫の守本尊である地蔵を祀る。海蔵寺は山懐に抱かれた花の寺。線路脇の崖下のやぐらに阿仏尼は眠る。冷泉為相の母・阿仏尼は所領の相続問題を鎌倉幕府に訴えるため京から下った。その際の日記が「十六夜日記」。因みに、阿仏尼邸旧蹟は極楽寺近くにある。相馬師常は頼朝の旗揚げに協力した。墓は路地の奥まったところにある。浄光明寺の手前の里見弾旧居は素敵な日本建築であった。茶菓の接待を受けたが、今や跡形もない。この寺には重文の阿弥陀三尊像がある。宝冠を被った如来像にはビックリ。背後の山に歌人・冷泉為相は眠る。線路を渡って壽福寺へ。大仏次郎が眠る。政子・実朝の墓はやぐらの中の五輪塔。刃稲荷は刀匠・正宗の屋敷に祀られていた稲荷社。因みに、正宗の墓は鎌倉の本覚寺にある。扇ガ谷から佐助へ抜ける道が佐助トンネルだ。

第 5 回　（平成 16 年）―鎌倉の歴史散歩

JR 鎌倉駅西口集合→問注所旧蹟→裁許橋→六地蔵→笹目ケ谷→鎌倉文学館→甘縄神明宮→御霊神社→極楽寺坂切通し→針磨橋→十一人塚→江ノ島→KKR ニュー向洋（懇親会）

問注所と裁許橋と六地蔵はワンセット。問注所は鎌倉幕府の裁判所。裁判の結果、無罪であれば裁許橋を渡り、有罪であれば六地蔵辺りにあった刑場で処刑されたという。笹目ケ谷は住宅が連なる深い谷戸。雰囲気がある。鎌倉文学館は眼下に相模湾を見下ろす絶好の地にある。旧前田侯爵の別邸。近所には吉屋信子記念館。川端康成旧宅近くにある甘縄神明宮は鎌倉最古の神社だ。御霊神社は源義家に従って後三年の役で活躍した鎌倉権五郎を祭る。極楽寺坂切通しは 1333 年の新田義貞による鎌倉攻めの戦場。義貞は大舘宗氏にこの切通しからの攻撃を命じた。しかし、鎌倉側に攻められ、宗氏以下 11 人が討死。その遺体を埋めた場所が十一人塚だ。針磨橋は「はりすりばし」と読む。江ノ島へは稲村ケ崎から江ノ電に乗る。KKR ニュー向洋は海を見下ろす高台に建つ。

第 6 回　（平成 19 年）―茅ヶ崎の歴史・文学散歩

JR 茅ヶ崎駅北口集合→八幡神社前→スリーハンドレッドクラブ→大岡越前守の墓（浄見寺）→旧和田家住宅→熊沢酒造→開高健記念館→国木田独歩追憶碑→茅ヶ崎館（懇親会）

茅ヶ崎駅北口からバスに乗り、八幡神社で下車。名門ゴルフクラブ・スリーハンドレッドクラブに挟まれた道を行くと、浄見寺に辿り着く。大岡越前守の墓が何故ここに。実は茅ヶ崎は大岡家の領地だったのだ。お寺には大岡家の初代からの墓が並ぶ。浄見寺の隣に建つ旧和田家住宅は江戸時代の古民家。熊沢酒造は湘南で唯一の酒蔵。「天青」の銘柄が有名。地ビール「湘南ビール」も製造する。開高健記念館は茅ヶ崎海岸の近く

にあり、書斎が当時のまま残されている。独歩は茅ヶ崎の南湖にあったサナトリウムで亡くなった。今回の史跡巡りの目玉は何といっても茅ヶ崎館。小津安二郎ファンにとってはメッカである。名作「東京物語」の脚本はここで書かれた。永遠の処女・原節子も泊まった。独歩を見舞う多くの文人も泊まったという。こんな由緒ある旅館で相模湾の新鮮な魚が食せるとは。正に贅沢であった。

第 7 回　（平成 20 年秋）―神奈川宿の歴史散歩

JR 東神奈川駅改札口集合→高札場→ヘボンの宿（成仏寺）→ヘボンの診療所（宗興寺）→慶運寺→お台場→本覚寺→高島易断の碑→料亭・田中家→中華街「吉兆」（懇親会）

神奈川宿は東海道五十三次の 3 番目の宿である。高札場は幕府が法度や掟等を庶民に徹底するための施設。ヘボンは成仏寺に住まい、宗興寺に神奈川施療所を開設した。横浜近代医学の歴史はここに始まる。慶運寺には浦島太郎伝説がある。ここのお台場は勝海舟の設計によるが、今は石垣が残るのみ。本覚寺は生麦事件当時のアメリカ領事館。薩摩藩士に切り付けられた英国人 2 人はここに逃げ込み、ヘボンの治療を受けた。実業家・高島嘉右衛門は「高島易断」の創始者でもあった。料亭・田中家は広重の浮世絵「東海道五十三次　神奈川・台之景」に描かれた旅籠「さくらや」の後身。龍馬の妻・おりょうはここで働いた。中華街・吉兆の「あさりそば」は名物。あさりが誠に大きい。

第 8 回　（平成 21 年秋）―荒川・台東・墨田の股掛け散歩

地下鉄三ノ輪駅集合→浄閑寺→円通寺→千住製絨所跡→荒川ふるさと文化館→回向院→平賀源内の墓→お化け地蔵→白鬚神社→向島百花園（懇親会）

浄閑寺は遊女の投げ込み寺として夙に有名。新吉原総霊塔がある。永井荷風の誌碑と筆塚が相対する。円通寺は戊辰戦争ゆかりの寺。明治時代に唯一、賊軍の法要ができた。彰義隊の遺体が埋葬され、弾痕の残る寛永寺黒門が移築されている。千住製絨所は明治 12 年に設置された日本最初の毛織物工場。その跡に大毎オリオンズの本拠地・東京スタジアムが設置された。荒川ふるさと文化館では荒川の考古・歴史・民俗が学べる。回向院は小塚原処刑場の刑死者を弔う。橋本左内、吉田松陰、毒婦・高橋お伝等の墓がある。杉田玄白等の「腑分け」もここ。平賀源内の墓が何故台東区橋場に。源内は殺傷事件を起こし、小伝馬町の牢内で獄死。玄白が葬儀を執り行い、この地にあった総泉寺に葬った。立派な築地塀に囲まれている。鳥取藩士・平井権八は遊ぶ金に困り、総泉寺境内のお化け地蔵に隠れて辻斬りを働いたという。妙なところに鳥取が。何と、白鬚神社でも鳥取が絡む。宮司さん曰く「我が妻は鳥取西高の OG なり」と。これにはビックリした。向島百花園での懇親会には、態々奥様が日本酒数本を届けてくださった。

第 9 回　（平成 22 年秋）―四谷と麹町の「山の手」散歩

地下鉄四谷三丁目駅集合→於岩稲荷→剣客・榊原健吉の墓（西応寺）→須賀神社→長谷川

平蔵の碑（戒行寺）→服部半蔵の墓（西念寺）→高松喜六・塙保己一の墓（愛染寺）→荒木町・策の池→番町文人通り→グランドアーク半蔵門（懇親会）

四谷に行く以上は先ずは於岩稲荷に参拝しないとご難がある。榊原健吉は最後の剣客。天覧兜割りで有名だ。須賀神社は四谷の総鎮守。長谷川平蔵は「鬼平犯科帳」の主人公。火付盗賊改方。石川島に人足寄場を設けた。服部半蔵は伊賀同心の支配役。半蔵門の名前の由来。高松喜六は内藤新宿の生みの親。塙保己一は盲目の身で「群書類従」を編纂した。荒木町は嘗ての花街。路地が入り組む魅力的な飲み屋街だ。擂鉢形の地形の底に「策（むち）の池」がある。家康がむちを洗ったことに由来。番町には藤村、有島兄弟、鏡花等多くの文人が住んだ。都心で、これほどの食事が、このお値段で。さすがグランドアーク半蔵門。

第 10 回　（平成 23 年秋）一新宿区の歴史散歩

地下鉄新宿御苑前駅集合→円朝旧居（花園公園）→渥美清の墓（源慶寺）→八雲旧居（成女学園）→荷風旧居（断腸亭跡）→市谷監獄跡→逍遥旧居→抜弁天→大久保犬御用屋敷跡→旧小笠原伯爵邸→月岡芳年の墓（専福寺）→紅皿の墓（大聖院）→西向天神→遊女投げ込み寺・恋川春町の墓（成覚寺）→「栄寿司」（懇親会）

円朝の落語「名人長二」はここで生まれた。何とも洋風なデザインの源慶寺に寅さんは眠る。極く普通のお墓。本名・田所康雄。八雲はここから東大へ人力車で通ったという。断腸亭跡は何と郵政宿舎に変身していた。市谷監獄跡は道を隔てた児童公園の中にある。逍遥旧居は歩道に標識が立つのみ。抜弁天は弁天さんを祀る厳島神社。南北に通り抜けられることからこの名前が付いた。大久保犬御用屋敷跡は 5 代将軍綱吉の悪政の跡。面積 2 万 3 千坪、10 万匹の犬を収容した。旧小笠原伯爵邸はスパニッシュ様式の館。食事は勿論、コーヒー、紅茶も飲める。月岡芳年は幕末から明治前期にかけて活躍した浮世絵師。「無惨絵」で有名。紅皿は、急な雨に遭った太田道灌に山吹を差し出し、無知を恥じた道灌が歌に精進するきっかけを与えた少女の名前。西向天神は何故西向か。大宰府に向いているからだ。成覚寺には内藤新宿の遊女が葬られた。子供合埋碑がある。恋川春町は江戸中期の戯作者。「金々先生栄花夢」で黄草紙を開拓した。新宿三丁目の栄寿司は結婚する前の亡妻と雨に降られ、駆け込んだ思い出の店。二階が宴会場。

第 11 回　（平成 24 年秋）一秋刀魚の秋の目黒区散歩

東急目黒線不動前駅集合→連理塚（安楽寺）→氷川神社→成就院→比翼塚（目黒不動仁王門前）→北一輝・大川周明の墓（瀧泉寺）→目黒不動→青木昆陽の墓（瀧泉寺）→お七井戸→大円寺→自然教育園→居酒屋「駒八」（懇親会）

鳥取藩士・平井権八は父の同僚を殺害して江戸に逃亡。時に 18 歳。吉原の遊女・小紫と恋仲に。金に困り、辻斬りを重ね、その数 130 人。自首した権八は鈴ヶ森の露と消えた。享年 25 歳。これを聞き及んだ小紫は吉原を抜け出して後追い心中。二人を憐れ

んで建てられたのが連理塚であり、比翼塚だ。氷川神社には嘗て江戸七大瀑布の一つ・氷川の滝があった。因みに、「江戸七大瀑布」とは「氷川の滝」の他に、「新宿十二社権現の滝」、「目黒独鈷の滝」、「等々力不動の滝」、「王子弁天の滝」、「上野音羽の滝」及び「王子名主の滝」をいう。成就院は会津藩主・保科正之ゆかりの寺。正之の生母で2代将軍・秀忠の側室・お静が寄贈した「お静地蔵」がある。目黒不動の正式な名前は瀧泉寺。境内の「独鈷の滝」に由来する。墓所は離れたところに2箇所ある。その一つに北一輝と大川周明の墓が向いあって立つ。もう一つに甘藷先生・昆陽は眠る。昆陽は大岡越前守に取り立てられ、「蕃薯考」を著した。八百屋お七ゆかりの井戸が目黒雅叙園前にある。お七の恋人・吉三は出家し、西運と名乗った。大円寺にその墓がある。大円寺は江戸三大火事の一つ・行人坂火事の火元。自然教育園は武蔵野の自然を残す広大な公園。東京ドーム4個分、6万坪の面積を誇るが、意外に知られていない。「駒八」では丁度旬の「目黒の秋刀魚」を堪能した。

第12回　（平成26年秋）―映画界の巨匠と名優が眠る鎌倉のお墓巡り

JR 北鎌倉駅下車・円覚寺門前集合→笠智衆の墓（成福寺）→八雲神社→小津安二郎・木下恵介の墓（円覚寺）→河村瑞賢・大島渚の墓（建長寺）→里見弴旧居→八雲神社→日蓮辻説法跡→琴弾橋→妙本寺総門→八雲神社→黒澤明の墓（安養院）→居酒屋「舵屋」（懇親会）

北鎌倉駅から線路沿いを大船方面に歩くと萱葺きの山門が迎えてくれる。成福寺である。ここに笠智衆は眠る。何故、円覚寺や建長寺でないのか。実は笠家は浄土真宗。鎌倉広しといえども浄土真宗のお寺は成福寺のみという。品のあるお墓。如何にも笠智衆らしい。山寄りの道を円覚寺に向かって歩く。途中に八雲神社がある。鎌倉に4か所あるうちの一つ。厄除けにご利益があるとか。円覚寺の境内に入り、急勾配の坂を上った墓所に小津安二郎の墓はある。大きな四角い黒御影石に「無」とのみ。お酒が所狭しと並ぶ。小津の墓に相対してひっそりと立つ墓石が木下恵介の墓だ。日本海の西回り航路等を開いた河村瑞賢の墓に参った後、建長寺最奥の塔頭・回春院の門前へ。ここに大島渚は眠る。大覚池を回り、峠を越えると西御門に出る。急勾配の坂を下り、里見弴旧居へ。この建物は弴自らが設計した洋館。今は「西御門サローネ」という集会場。弴はここから扇ガ谷の家に引っ越した。途中、二つ目の八雲神社に参拝。日蓮は滑川に沿った小町大路で辻説法を行った。琴弾橋（ことひきはし）は滑川に架かる朱塗りの橋。素敵な名前だ。妙本寺は比企一族滅亡の跡に建てられた。三つ目の八雲神社は鎌倉最古の厄除け神社。厄除けのために京都・祇園八坂社を勧請したのが始まり。黒澤明の墓は安養院から離れた墓所にあり、分かりづらい。大きく平らな黒御影石に「黒澤家」とある。戒名が何とも凄い。「映明院殿紘國慈愛大居士」。小町通の「舵屋」は急階段を上った二階。いい感じの店。相模湾の新鮮な魚が売りだ。

第13回　（平成28年秋）―中野上高田・新宿上落合の文学散歩

JR 東中野駅西口集合→笠森お仙・三木清の墓（正見寺）→河竹黙阿弥の墓（源通寺）→新井白石の墓（高徳寺）→新見豊前守正興の墓（願正寺）→尾崎翠の下宿先→林芙美子記念館→橋浦泰雄の下宿先・板倉内膳正重昌の墓（宝泉寺）→吉良上野介・林芙美子・歌川豊国の墓（功運寺）→「たきびの歌」発祥地→中野哲学堂→居酒屋「百人衆」（懇親会）

笠森お仙は「明和三美人」の一人。谷中の笠森稲荷門前の水茶屋「鍵屋」の看板娘。鈴木春信の錦絵のモデルとなった。人気絶頂中に姿を消し謎に包まれたが、実は幕府旗本御庭番の倉地甚左衛門に嫁した。三木清の墓がこのお寺にあったとは。河竹黙阿弥は幕末から明治にかけて活躍した歌舞伎狂言作者。新井白石の墓は、整然と並ぶ新井家の墓の一番奥に夫人の墓と仲良く並ぶ。新見豊前守正興は幕末の幕臣。日米修好通商条約の批准書の交換に正使として渡米した。領地は現在の横浜市戸塚区品濃町。偶然にも私が現在住む住所地である。余談ながら、柳原白蓮は新見の孫である。上高田から上落合に行く途中に落合斎場がある。漱石はここで荼毘に付され、葬儀が営まれた。今年は漱石没後、丁度 100 年。尾崎翠は鳥取が生んだ特異な小説家。「第七官界彷徨」で有名。上落合三輪に下宿した。妙正寺川に架かる美仲橋を渡り、中井 2 丁目の「四の坂」にある翠の友人・林芙美子の記念館へ。素晴らしい日本建築だ。再び妙正寺川に架かる水車橋を渡り、急坂を上って宝泉寺へ。この寺に下宿した橋浦泰雄も鳥取県人。民俗学研究家で柳田国男の高弟。有島武郎が大変信頼した人物でもあった。しかし、今や忘れられた存在。残念でならない。板倉内膳正重昌は方広寺梵鐘事件で徳川側の使者を務めた。島原の乱で戦死。功運寺には上野介、芙美子、豊国等歴史上有名な人物の墓が整然と並ぶ。実は、「旗本奴」の代表格・水野十郎左衛門の墓も。水野は「町奴」の大物・幡随院長兵衛を殺害。お咎めはなかったが不敬不遜の故に切腹を命ぜられた。因みに、幡随院長兵衛と白井（平井）権八との鈴ヶ森での出会いを浮世絵に描いのが三代目豊国である。「たきびの歌」を耳にすると、落ち葉焚きの匂いが漂ってくる。発祥地は中野区上高田 3 丁目の鈴木さん宅。今もお宅の周囲は竹垣で囲まれ、庭には幾本もの欅の木が聳える。中野哲学堂を創設したのは井上円了。直ぐ近くの蓮華寺に眠る。「百人衆」では新潟の地酒が飲み放題。大いに酔っ払った。